

## 貸出教材キット&教材パネルのご紹介

国際平和ミュージアムでは、社会科をはじめ、国語科、道徳科、総合などの授業で活用できる教材キットとパネルをご用意しています。手にとって触れることができる実物資料（一部複製）や解説パネルを授業案とセットで、主に学校団体向けに無料で貸し出しています。

### 現代（さいころくん）キット

キーワード：飢餓・児童労働・地球環境・SDGs

私たちの周りには、平和な暮らしを阻むさまざまな問題があります。このキットは、それらの問題を知ることによって、平和創造のために自分たちに何ができるのか考えてもらうヒントを提示するものです。食料問題、水問題、児童労働など12テーマで現代社会の問題を紹介します。

※授業案（中学生用）あり



教材  
キット

### 一五年戦争（慰問袋）キット

キーワード：戦争・銃後の暮らし・兵隊・慰問文

このキットは、戦時中に銃後（直接戦闘には加わらない）の人々が兵士へ送った「慰問袋」（とその中身）を通して、戦争の実態や当時の



様子を考えることができるものです。慰問袋、キャラメル、皇軍慰問将棋、裁縫セット、慰問文などの複製と資料解説カードが入っています。

※授業案（中学生用）あり

教材  
キット

### 原子力と私たちの生活パネル

キーワード：核兵器・原発・エネルギー問題

安斎育郎名誉館長によるわかりやすい解説DVDと、核兵器と原発という核エネルギーの異なる利用方法を一体に理解できるパネル6枚をセットにしています。豊富な図表やイラストがあり、理科や社会科でエネルギー問題の未来を考える素材が満載です。 ※授業案なし

教材  
パネル

### 2018年度 利用実績19団体 (小学校10、中学校5、大学1、一般3)

#### 利用者の声

- ・ 実際のものに触れるという経験は、とても貴重なので有効だと思います（一五年戦争（慰問袋）キット）
- ・ さいころは、どの話題が出るのかワクワクして意欲的に取り組めた（現代（さいころくん）キット）
- ・ 世界と日本を比べることができた。世界の様子がわかりやすい（同）

#### 利用について…

1. 電話（075-465-8151）で予約をする  
※貸出期間は原則2週間です
2. ホームページから申請書をダウンロード  
必要事項を記入し、FAX（075-465-7899）

#### 配送方法

- ・ 宅配便で発送します（要送料\*）
- ・ 車での来館による貸出・返却もできます

※2019年度、アンケートへ回答いただいた学校団体での利用に限り  
配送無料

## スリランカのお盆

図1は、地下1階の東南アジアコーナーに展示しているスリランカのお盆です。中央に蓮の花をあしらひ、その周囲に、植物文様、水鳥、植物文様、動物を配し、そして最外縁に蓮の花弁を巡らせるという絢爛豪華な装飾が浮き彫りされています。そのうちの動物部分は、よく見ると、ライオン・牛・象・馬が、時計回り方向に繰り返して表現されています。実はこの図柄は、スリランカでは大変なじみ深いもので、アマラーダブラやポロンナルワといった世界遺産の仏教寺院遺跡において、石段部分に配される半月状の踏み石（現地では「ムーンストーン」と呼ばれます）の図柄にそっくりなのです（図2）。そもそもこうした踏み石は、インドの古代寺院に原形があり、仏教の伝播にそってスリランカに伝えられました。先の動物の組み合わせも、インドの四大聖獣に端を発し、アジア仏教文化圏に広く知られたものです。ただし寺院の踏み石に限ると、インドの場合は簡素なものが多く、これに対してスリランカでは、より豪華な装飾となり、形状も洗練され、多くの寺院に採用されるポピュラーな建築装飾となっていたようです。

展示コーナーでも紹介されている通り、スリランカでは、1983年の「7月暴動」以来、タミル・イーラム解放の虎

（LTTE）のテロ活動とそれに対する政府軍の武力行使が激化し、25年以上にわたって内戦状態となりました。これに終止符が打たれたのは、2009年のことです。この対立については、南インドから入植してきたタミル人と在地のシンハラ人との単純な「民族対立」の構図では説明できない様々な要因が指摘されています。内戦の終結後、道路などのインフラ整備に加えて、荒廃した寺院遺跡の修復・保存事業が進められ、特に近年は、上述した世界遺産を訪れる海外からの旅行者も急速に増加しつつあります。こうした文化・遺産を保護し後世に伝えてゆくためには、技術的・経済的な支えが必要であることは言を俟ちません。しかし何より、多様な文化に触れ親しみ、深く理解し、文化を育むという強い意志がなければ、後世に残していくことは難しいでしょう。図1のお盆は、かつて寄贈くださった方から、日本とスリランカの友好の証として送られたものと伺っています。スリランカの芸術伝統に由来する図柄を採用したこのお盆を見る時、戦乱や対立を乗り越え、寛容さと根気強さをもって文化を育んでいく意志が、はたして現在の私たちにどれだけ備わっているのか、問いかけてくれているように思えてなりません。

（展示セクター長：西林孝浩）



図1 お盆（杉野美代子氏寄贈）



図2 アバヤギリ寺院遺跡の踏み石  
（8世紀、スリランカ、アマラーダブラ）

## ボランティアガイドコラム

ミュージアムには多くの団体が来館されます。私たちボランティアガイドは、団体の希望に応じて、グループガイドやポイントガイドを行っています。団体の種別は、小中学生を始め、高校生、大学生、一般と幅広く、目的も学校教育の一環や人権研修などが多いように思います。また、学校教育の一環といえども、校外学習、修学旅行やその事前学習などで来館され、平和教育、人権教育、道徳教育、社会科教育、総合学習と様々で、学習方法においても、学校独自のワークシートを作成されるなど、調べ学習や自ら課題を発見し、自ら課題を解決するような探究的な学習に取り組んでおられる学校もあります。

私たちはこのような様々な団体のニーズにできるだけ応えるため、事前に、あるいは、来館時に目的等を把握するように努めています。ガイドといえ、展示物の適切で分かりやすい説明をすることが重要な役割ですが、今般、来館者の方とのコミュニケーションも大事だと思っています。特に学校団体では、学習の場でもあるので、双方向的な関係を重視しています。どのような目的をもって来館されたかを知らないで、一方的にガイドをしていたら、児童・生徒の皆さんもきっとしんどい思いをされるでしょう。来館者の方の質問や疑問、感想等は、私たちボランティアガイドにとっても大切なものだと思っています。

その意味において、来館される団体の方は、予約される段階で目的や要望等を伝えておいていただければ幸いです。また、学校団体において、ガイドの要・不要を考えられるとき、ポイントガイドであれば、児童・生徒の皆さんの自主性・主体性を尊重しつつ、その場での質問や疑問、学習の支援等に対応できるのではないかと思います。

ミュージアムのモットーは、平和について「みて かんじて かんがえて その一歩をふみ出そう！」です。私たちは、ミュージアムが過去の不幸な出来事を知り、未来に平和をどう築いていけばよいかを考えていただくための場であってほしいと願っています。私たちボランティアガイドの中には、戦争中の体験をお話しできるものがあります。また、学校教育に携わった経験をもつものもいます。有効に活用していただくと幸いです。私たちも来館される団体の方の目的に沿うように、その特性を少しでも生かしていきたいと思っています。

（ボランティアガイド：山中偉史）



私たちメディア資料室の学生スタッフの仕事は、利用者に図書のリファレンスサービスを提供することや、収蔵資料データベース「Peace archives」へのデータ登録など多岐にわたって展開していますが、最も大事な作業は歴史資料の取り扱いです。

国際平和ミュージアムは膨大な博物館資料を収蔵しており、定期的に戦争と平和に関する歴史資料が寄贈されています。それらの貴重な資料の整理は学生スタッフの重要な仕事です。具体的には、資料の性質、寸法、年代、状態などの情報を記録する「資料カード」を作成し、資料写真を撮影します。その後、資料の基本情報をデータベースに登録し利用者に提供しています。資料の状況や歴史的背景を正確に理解するために、歴史文献などを調べることも常に行っています。このように実際に文献を調べながら歴史資料を取り扱う作業を通じて、より一層戦争が人間にもたらした不幸を感じ、より深く平和を理解することができると思います。

また一つの資料に対して、基本情報を把握することから撮影やデータベースの管理まで、一人ではなく共同で行う場合もよくあります。学生スタッフ間の共同作業を通じて、責任感を持ちながらチームで仕事を実行する大切さを感じています。それは私のような留学生にとっても、非常に貴重な経験だと思っています。

メディア資料室の仕事では大学の研究室内だけでは触れることのない様々な資料と関わることができ、学生同士や地域内外の多くの来館者と交流するチャンスも増えました。自分のふるさとである南京では比較的小さな頃から平和教育を受けてきたこともあって、誰よりも平和を切望しています。そのため、国際平和ミュージアム学生スタッフの一員となり微力ながらも平和事業に貢献できることは、私にとって非常に有意義な仕事だと思っています。

今年は、私の学生生活最後の年になります。最後まで仲間たちと一緒に笑って、成長したいと考えています。



(学生スタッフ：張玉涵)

## これからの展示予定

### 特別展 世界報道写真展2019 —WORLD PRESS PHOTO 19—



**会期** 9月23日(月)・(祝)～10月5日(土) 滋賀 (立命館大学びわこ・くさつキャンパス エポックホール)  
10月7日(日) ～10月31日(土) 京都 (立命館大学国際平和ミュージアム 中野記念ホール)

**展示** 世界報道写真財団(本部：オランダ)が毎年開催している「世界報道写真コンテスト」入賞作品で構成する世界規模の写真展。  
※会期中、関連企画を開催します。詳細はHP、Twitterをご覧ください。

環境の部 単写真1位 プレント・スタートン(南アフリカ、Getty Images)  
ジンバブエのフンドゥンドゥ野生動物公園で、女性メンバーだけで構成される反密猟武装部隊「アカシंगा」の偽装・隠蔽対策訓練に参加するパトローネ・チグムブラ(30)。

※「世界報道写真展2019」開催中は、見学資料費が大人500円(個人・団体とも)になります。

トークイベント

### 渋谷敦志氏 × 国境なき医師団 ～人道危機の現場で、人々に寄り添うこと～

10月14日(日)・(祝) 14:30～15:30

■会場：立命館大学衣笠キャンパス(京都) 国際平和ミュージアム1階ロビー ■申込不要 参加費無料(定員100名)

国際的な医療人道援助団体の国境なき医師団が、世界各地の現場取材を続けるフォトグラファー・渋谷敦志氏を迎え、海外派遣スタッフとともにスライド・トークを開催します。

主催：立命館大学国際平和ミュージアム、朝日新聞社、国境なき医師団日本 ※お問い合わせ：立命館大学国際平和ミュージアム TEL：075-465-8151

### 2019年度秋季特別展 上野誠版画展—『原爆の長崎』への道程—

「ヒロシマ三部作(男・女・鳩)」、「原子野連作」など広島・長崎の原爆被害を描いた版画家上野誠(1909-80年)。本展では、1961-62年に制作した掌版シリーズ(小版習作)や友人への手紙を糸口に、戦後復興の影で差別や貧困、後遺症に苦しむ被爆者の訴えを版に刻み続けた上野の反戦・平和へのメッセージを遺された作品を通して伝えます。

**会期** 11月7日(木)～12月18日(水)

立命館大学国際平和ミュージアム 中野記念ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム 協力：ひとミュージアム上野誠版画館

「時計(1945年8月9日11時2分)」  
ひとミュージアム上野誠版画館蔵



トークイベント

11月9日(土) 14:00～15:30

「日本の加害を版画にした上野誠」

田島隆氏(ひとミュージアム上野誠版画館 館長)

■会場：立命館大学衣笠キャンパス(京都) 国際平和ミュージアム1階ロビー ■申込不要 参加費無料 (本展および常設展の見学には別途参観料が必要です)

11月16日(土) 14:00～15:30

関西文化の日 (無料公開)

「父・上野誠」

上野 適氏(版画家・ひとミュージアム上野誠版画館 副館長)

※後半にギャラリートークを予定しています。

**第126回**  
**熟覧Ⅳーメディア資料室への誘いー**  
**会期** 9月1日⑩～9月28日⑩

大好評企画の第4弾。立命館大学の学生と留学生が選ぶオスムの取蔵資料や図書などから、国際色豊かなミュージアムの魅力をお伝えします。  
 ICOM京都大会2019開催記念企画  
 主催：立命館大学国際平和ミュージアム



昨年度の展示の様子

**第127回**  
**第13回立命館附属校**  
**平和教育実践展示**  
**会期** 10月7日⑩～12月13日⑩

立命館学園附属校5校による、各校の平和教育の取り組みとその成果をリレー形式で展示します。展示の共通テーマは「私たちが目指す世界：立命館のSDGs」です。  
 主催：立命館中学校・高等学校、立命館宇治中学校・高等学校、立命館慶祥中学校・高等学校、立命館守山中学校・高等学校、立命館小学校  
 共催：立命館大学国際平和ミュージアム

**第128回**  
**パネル・写真展：わたしをここからだしてーオリンピックの「治安対策」の名の下にー**  
**入管収容所で苦しむクルド難民の現在（いま）ー**  
**会期** 2020年1月13日⑩～2月8日⑩

主催：クルド人難民Mさんを支援する会  
 共催：立命館大学国際平和ミュージアム



破壊された家屋の前を歩くクルド人住民。  
 トルコ東部・ジズレ市にて  
 (photo by Refik Tekin)

# 遊心雑記

## 韓国の平和博物館のいま

2019年5月16日～20日、「平和のための博物館国際ネットワーク (INMP)」協賛の韓国平和ツアーが実施され、私も解説者として同行、植民地歴史博物館、安重根記念館、5・18民主化運動記録館、朴鍾哲人権記念館、李韓烈記念館などを訪れました。ツアーには北海道から沖縄まで、35人が参加しました。

韓国では、1979年の朴正熙（パク・チョンヒ）大統領暗殺後に実権を握った全斗煥（チョン・ドファン）大統領が、金大中（キム・デジュン）を含む野党政治家を逮捕・軟禁、これに反発して「光州事件」（光州民主化運動）が起きましたが、政権はこれを鎮圧するため陸軍の特殊部隊を送って多数の市民を虐殺しました。

全斗煥政権は学生活動家を強制入営させて密告やスパイ活動をさせ（「緑化事業」）、社会的弱者や犯罪者や労働運動家など約4万人を一斉逮捕、軍隊の「三清（サムチョン）教育隊」で過酷な訓練と強制労働を課しました。その結果、暴行などによる死者52人、後遺症による死者397人、精神障害者2,768人など、大きな傷跡を残しました。

安齋 育郎（国際平和ミュージアム名誉館長）

学生活動家だった朴鍾哲（パク・ジョンチョル）は1987年1月に下宿先から治安本部の南営洞対共分室に連行され、拷問の末に死亡、その死は「6月民主抗争」に強い影響を与えました。私たちが訪ねた朴鍾哲人権記念館（写真）はこの拷問現場を記念館にしたもので、別掲写真は拷問部屋の様子です。見た目はきれいですが、ここは人権否定の暴力の現場でした。

延世大学の李韓烈（イ・ハニョル）はこの朴鍾哲拷問致死事件に抗議し、6月9日に抗議行動に参加して催涙弾を後頭部に受け、死線をさまよった末に死亡しました。7月9日に行われた「民主国民葬」には全国で300万人を超える人々が参加しました。私たちが訪れた李韓烈記念館は、まさに、彼の死を記念して開設されたものです。

韓国市民の民主主義を求める努力は、「平和のための博物館」として結晶しています。



朴鍾哲人権記念館（ソウル）

**2019年度（2019年4月1日）より**  
**休館日が月曜日から日曜日になりました。**

学校単位でのご見学等、月曜日にご予定いただくことが可能になりました。  
 従来どおり祝日の翌日は休館です。

■ミュージアム概要■

**開館時間**：午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）  
**休館日**：日曜日及び、祝日の翌日（日曜日が祝日の場合は開館、翌日が休館）  
 年末年始・年度末の大学が定める休館日 ※詳細はHPでご確認ください。  
**見学資料費（入館料）**：大人400円（350円）、中・高生300円（250円）、小学生200円（150円）（ ）内は20名以上の団体料金

立命館大学国際平和ミュージアムだより



第27巻 第2号（通巻78号）2019年8月30日発行  
 編集・発行 立命館大学国際平和ミュージアム  
 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1  
 TEL：075-465-8151 / FAX：075-465-7899  
<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>

